

名古屋城石垣の文献調査と展望

名古屋城調査研究センター 学芸員 堀内 亮介

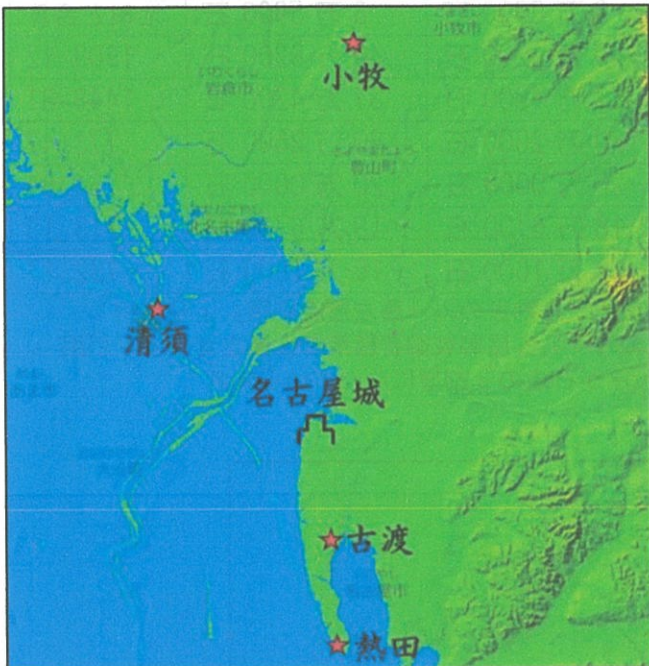
1-1 名古屋城の概要

- ・慶長 15 年(1610)、徳川家康の命令により築城が開始された近世城郭
- ・加藤清正・前田利常・池田輝政ら北国・西国大名 20 家を動員した公儀普請を実施
- ・慶長 20 年(1615)、家康九男・義直が名古屋に入城、江戸時代を通して尾張徳川家の居城となる

1-2 名古屋城築城までの歴史

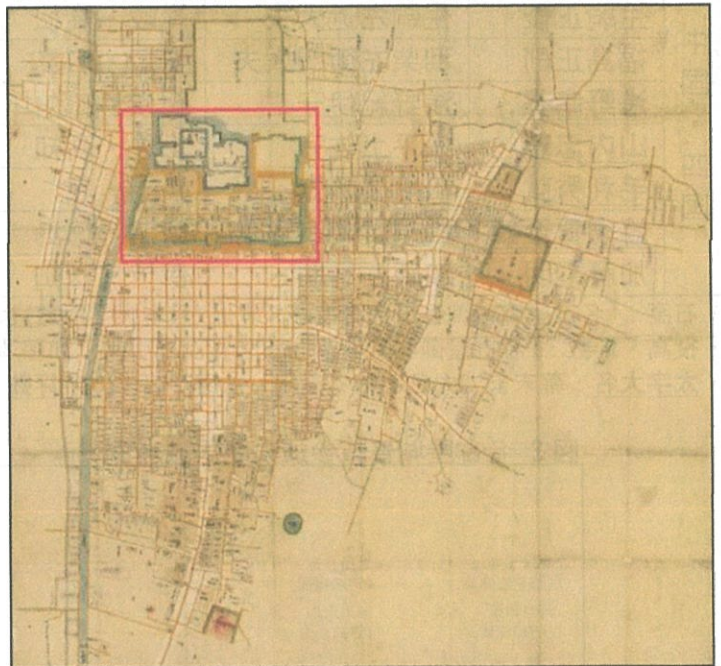
- ・慶長 5 年(1600)の関ヶ原合戦後、家康四男・松平忠吉が尾張国を与えられ清須城に入城
- ・慶長 12 年(1607)、松平忠吉の早世後、義直が尾張国を与えられる
- ・慶長 14 年(1609)、家康が義直と共に清須入城、尾張の拠点清須から名古屋に移すことを決定
 →「清須越し」は山下氏勝（義直の傅役・家臣）の建議によるもの
 「水害の恐れのある清須から、名古屋・小牧・古渡のいずれかに移転すべきである」

図1 名古屋城周辺地形図



「地理院地図」ウェブサイトより地形図引用

図2 「尾府名古屋図」(18世紀初頭の名古屋城下)



名古屋市蓬左文庫所蔵

2-1 慶長期の公儀普請

- ・名古屋城築城期(慶長 15 年頃)
- 公儀普請が盛んに行われた時期
- ・丹波篠山城普請
- ・丹波亀山城普請
- 名古屋城普請と同時期に実施
- 両城とも西国大名による普請

表1 西国大名を動員した公儀普請(慶長 15 年まで)

和暦	西暦	城郭	内容
慶長 8 年	1603	江戸城修築	江戸城下の拡張工事
慶長 9 年	1604	江戸城修築	石船・石材の調達
慶長 11 年	1606	江戸城修築	本丸・外郭石垣の修築
慶長 12 年	1607	駿府城修築	本丸・二之丸の修築
慶長 13 年	1608	駿府城再築	前年火災による再築
慶長 14 年	1609	丹波篠山城築城	松平康重の居城
慶長 15 年	1610	名古屋城築城	徳川義直の居城
慶長 15 年	1610	丹波亀山城築城	岡部長盛の居城

2-2 慶長15年 名古屋城公儀普請

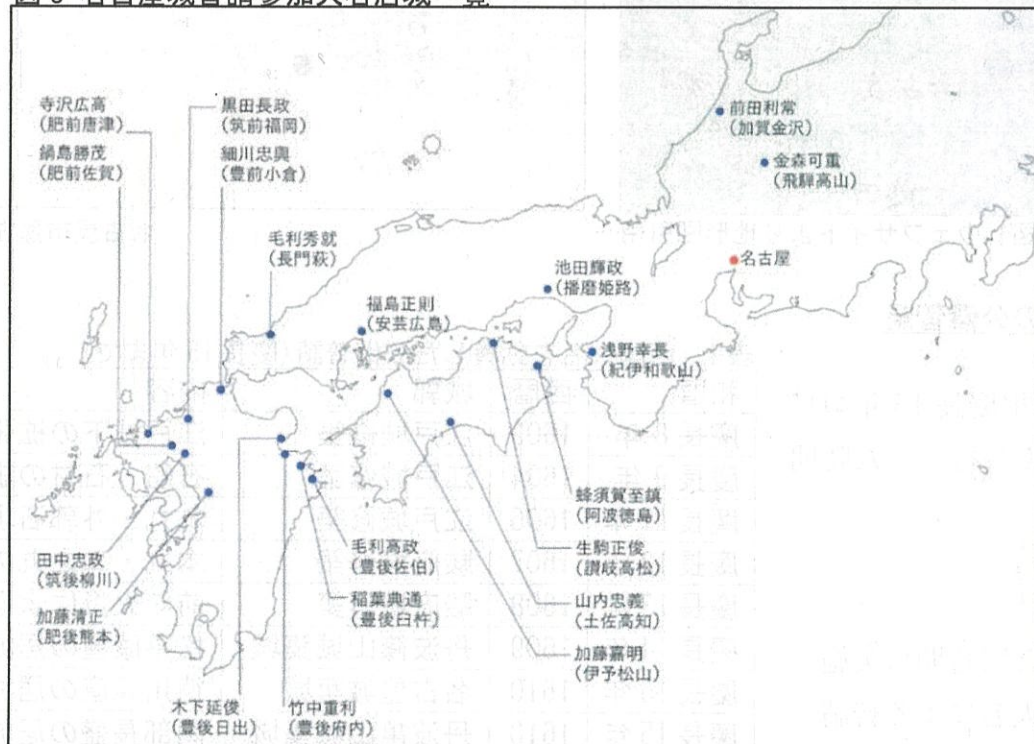
- ・北国(前田・金森)と西国(九州・中国・四国)の諸家)大名20家による公儀普請
- ・諸大名は自ら名古屋で普請の指揮を執り、延べ20万人を動員、半年でほとんどの石垣が完成

表2 名古屋城公儀普請に参加した大名20家

	大名	通称	居城	石高	役高	坪数
北国・九州	加藤清正	加藤肥後守	肥後・熊本	51万9890石	記載なし	1297.00
	前田利常	松平筑前守	加賀・金沢	103万2700石	134万2510石	5076.72
	黒田長政	黒田筑前守	筑前・福岡	30万7000石	40万3000石	1537.60
	細川忠興	羽柴越中守	豊前・小倉	30万0000石	39万0000石	1488.00
	鍋島勝茂	鍋島信濃守	肥前・佐賀	35万7037石	46万4146石	1770.72
	田中忠政	田中筑後守	筑後・柳川	30万2085石	39万2710石	1498.20
	寺沢広高	寺沢志摩守	肥前・唐津	9万5146石	12万3689石	476.25
	毛利高政	毛利伊勢守	豊後・佐伯	1万9000石	2万4700石	94.30
	竹中重利	竹中伊豆守	豊後・府内	2万0000石	2万6000石	100.90
	稲葉典通	稲葉彦六	豊後・臼杵	5万0060石	6万5078石	248.70
	木下延俊	木下右衛門大夫	豊後・日出	3万0000石	3万9000石	148.80
	金森可重	金森出雲守	飛騨・高山	(3万8402石)	4万9923石	189.40
	中国・四国	池田輝政	羽柴三左衛門	播磨・姫路	80万7500石	80万7500石
生駒正俊		生駒左近大夫	讃岐・高松	8万5900石	8万5900石	池田と合算
福島正則		羽柴左衛門大夫	安芸・広島	49万8200石	49万8200石	1909.12
浅野幸長		浅野紀伊守	紀伊・和歌山	37万4200石	37万4200石	1448.81
山内忠義		松平土佐守	土佐・高知	20万2600石	20万2600石	773.47
毛利秀就		松平長門守	長門・萩	20万0000石	20万0000石	764.84
蜂須賀至鎮		蜂須賀阿波守	阿波・徳島	18万6700石	18万6700石	713.13
加藤嘉明		加藤左馬助	伊予・松山	19万1600石	19万1600石	732.17

- ・石高：「名古屋御城御普請衆御役高ノ覚」（熊本大学所蔵）より引用、金森家のみ「蓬左遷府記稿」より引用
- ・役高・坪数：「名古屋御城町場請取絵図」より引用、加藤清正のみ「名古屋御城御普請衆御役高ノ覚」より引用
- ・**太字大名**：幕末まで大名として存続した家 ・**太字坪数**：役高が石高の3割増になっている大名

図3 名古屋城普請参加大名居城一覧



2-3 名古屋城普請の経緯

表3 「当代記」・「徳川実紀」・「家康文書」による名古屋城普請の経緯

年	月日	内容	出典
慶長14年 (1609)	1月25日	清須を訪れた家康が名古屋城の「経営」を命令	徳川実紀
	11月18日	普請奉行・牧助右衛門(長勝)が名古屋城の縄張を実施	当代記
慶長15年 (1610)	1月9日	家康が名古屋を訪れ縄張を命令、2月に普請開始を指示	当代記
	閏2月8日	駿河在府の西国大名が名古屋に出発	当代記
	6月3日	名古屋城本丸石垣の根石置き開始	当代記
	6月12日	名古屋城の本丸石垣が完成、二之丸普請の開始	当代記
	6月20日	家康が名古屋城本丸普請出来を慰労する黒印状を出す	家康文書
	9月9日	名古屋城普請がほぼ完了、諸大名が順次帰国	当代記
	9月晦日	家康が名古屋城普請の完了を慰労する黒印状を出す	家康文書

3 大名家文書からみる名古屋城普請開始

①慶長14年以前の動向

- ・慶長13年の段階で既に名古屋城普請が行われるという情報が流れていた【史1】
- ・山内家は慶長14年に「普請予備役」として家臣を名古屋に派遣していたとされる【史2】

【史1《毛利家》】慶長13年7月23日 益田元祥書状 (一)上

《益田元祥(毛利家臣)が江戸で得た、翌年の普請予定の情報を伝えている》

- ・来年(慶長14年)清洲の普請があり、「なごや」に(城の)取り替えをするという

②慶長14年12月～慶長15年2月 北国・九州大名の名古屋城普請動員

- ・北国・九州の諸大名に名古屋城普請の内命が通達される【史3・4】
- ・細川忠興・忠利は小倉で普請衆を編成して名古屋に派遣【史5】、鍋島家も準備【史9】
- ・中国・四国の諸大名は丹波篠山城普請に動員されたため、当初は免除されていた【史8・12】

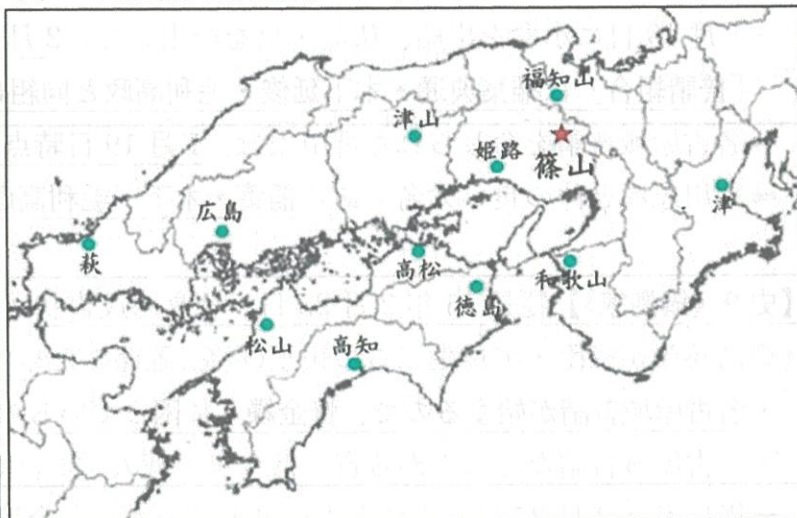
【補足】慶長14年 丹波篠山城普請

- ・篠山城の普請完了が予定より延びたため、当初は翌年普請の参加が免除されていたか

表4 丹波篠山城普請参加大名

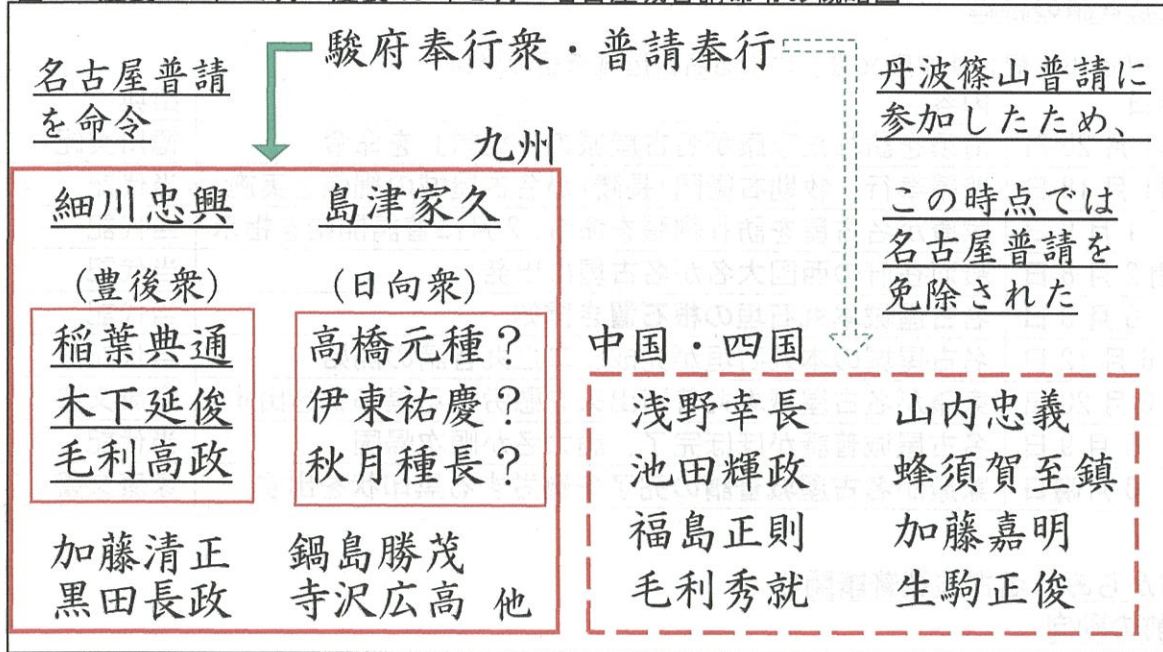
図4 丹波篠山城普請参加大名の居城

大名	居城	翌年普請
藤堂高虎	伊勢・津	亀山城
浅野幸長	紀伊・和歌山	名古屋城
池田輝政	播磨・姫路	名古屋城
有馬豊氏	丹波・福知山	不明
森忠政	美作・津山	亀山城
福島正則	安芸・広島	名古屋城
毛利秀就	長門・萩	名古屋城
山内忠義	土佐・高知	名古屋城
蜂須賀至鎮	阿波・徳島	名古屋城
加藤嘉明	伊予・松山	名古屋城
生駒一正	讃岐・高松	名古屋城



※普請参加が判明している大名のみ

図5 慶長14年12月～慶長15年2月 名古屋城普請命令の概略図



【史3《島津家》】 慶長14年12月2日 本多正純書状 (一)上

《本多正純(駿府奉行衆)が島津家久に来春の名古屋城普請動員を内達している》

- ・来春名古屋城普請があり、家康から北国・九州の大名衆に石垣普請が命じられる予定である

→慶長14年12月時点で北国・九州の大名に名古屋城普請の命令が出されていた

※島津家は琉球に派兵する役目があったため、後に名古屋城普請が免除された【史料13】

【史4《島津家》】 慶長15年1月5日 島津家久書状 (一)上

《島津家久が高橋元種(日向・縣(延岡)城主)に名古屋城普請動員について聞いている》

- ・名古屋城普請のため島津家は普請衆を派遣する、其方も普請衆を派遣することだと思ふ

→家久は同じ九州の大名である高橋元種も名古屋城普請に動員されたと思っている

※高橋元種は名古屋城普請ではなく、同時期の丹波亀山城普請に動員された【史料31】

【史5《細川家》】 慶長15年1月19日 名古屋城普請覚 (一)下

《細川家重臣が名古屋に派遣する家臣たちに注意事項を通達している》

- ・1月19日に小倉を出船、伏見・京を經由して、2月8日には名古屋に到着すること
- ・「普請組合」は稲葉典通・木下延俊・毛利高政と同組になるように手配すること

→名古屋城普請を命じられた細川家は、1月19日時点で家臣を名古屋に先行させた

→細川忠興と仲の良い大名である稲葉・木下・毛利高政と同組になるよう調整した

【史9《鍋島家》】 慶長15年2月25日 鍋島勝茂書状 (二)下

《鍋島勝茂が家臣・鍋島生三らに銀子(資金)確保のため年貢収納に励むよう命じている》

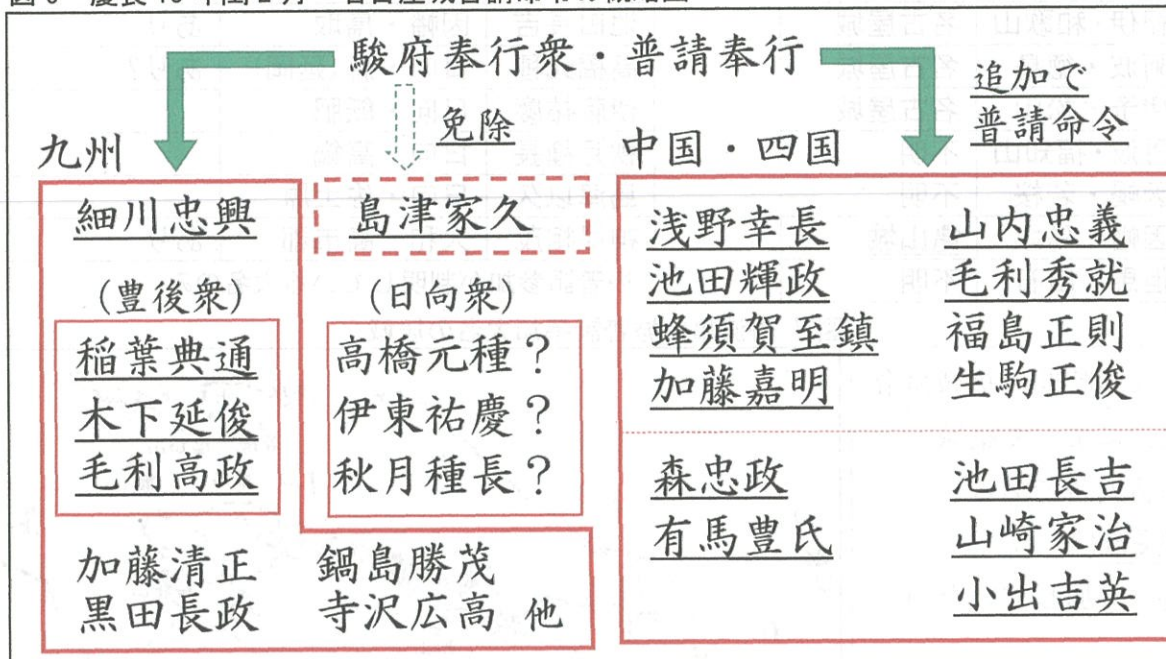
- ・名古屋城普請が始まるので、資金繰りに困っている
- ・名古屋城普請などにかかる資金は今年の蔵入(年貢)では賄えない、耕作には念を入れること

→鍋島家は2月25日時点で名古屋城普請のための金策をおこなっている

③慶長 15 年(1610)閏 2 月 中国・四国大名の追加動員

- ・家康が名古屋城普請の命令を出し、諸大名に名古屋に向かうよう指示
- ・免除予定だった中国・四国の大名も名古屋普請に参加するよう命令【史 10】
- ・浅野幸長・池田輝政は前月の時点で内々に情報を得ていたとみられる【史 7】
- ・山内忠義は急遽命令を受けたため、急いで家臣団を編成した【史 11・15】

図 6 慶長 15 年閏 2 月 名古屋城普請命令の概略図



【史 7 《浅野家》】 慶長 15 年 2 月 6 日 浅野幸長書状 (二) 上

《浅野幸長が後藤庄三郎(幕府御金改役)に名古屋城普請の情報を聞いている》

- ・「名古屋普請のこと」(=浅野家が普請に動員されること)について了解した
- ・池田輝政と相談して、何事も輝政の指示に従う

→浅野・池田は名古屋城普請の動員を事前に知っていた

【史 8 《山内家》】 慶長 15 年 2 月 11 日 本多正信書状 (二) 上

《本多正信(家康側近)が山内忠義に家康の意向を伝えている》

- ・四国衆は去年丹波篠山城普請に動員したので、今年の普請は免除する方針であった
- ・忠義は、他の城郭普請があれば、我々も動員してほしいと正信に伝えた

→山内家は 2 月 11 日時点では今年の普請を免除されていたと思っている

【史料 10 《浅野家》】 慶長 15 年閏 2 月 2 日 駿府奉行衆等連署触状 (二) 下

《駿府奉行衆が在駿府の大名に名古屋城普請の動員命令を通達する》

- ・(家康から)名古屋城普請の命令が出されたので、早々に普請衆を準備するように
- ・旧冬(慶長 14 年 12 月)に命令があったが、我々が勘違いしており、今になって命令を伝えた

→旧冬の命令：北国・九州の大名に対して名古屋城普請を命令

今回の命令：中国・四国の大名に対して名古屋城普請を命令

→丹波篠山城普請参加大名への免除方針が変更になったと推測される

※【史10】では、名古屋城普請に参加した大名以外に、同年の丹波亀山城普請に動員された森忠政・池田長吉に対しても名古屋城普請の命令が出されている

【補足】慶長15年 丹波亀山城普請

表5 閏2月2日触状で名古屋普請が命令された大名

大名	居城	実際の普請
池田輝政	播磨・姫路	名古屋城
森忠政	美作・津山	亀山城
浅野幸長	紀伊・和歌山	名古屋城
蜂須賀至鎮	阿波・徳島	名古屋城
加藤嘉明	伊予・松山	名古屋城
有馬豊氏	丹波・福知山	不明
山崎家盛	因幡・若桜	不明
池田長吉	因幡・鳥取	亀山城
小出吉英	但馬・出石	不明

表6 丹波亀山城普請参加大名

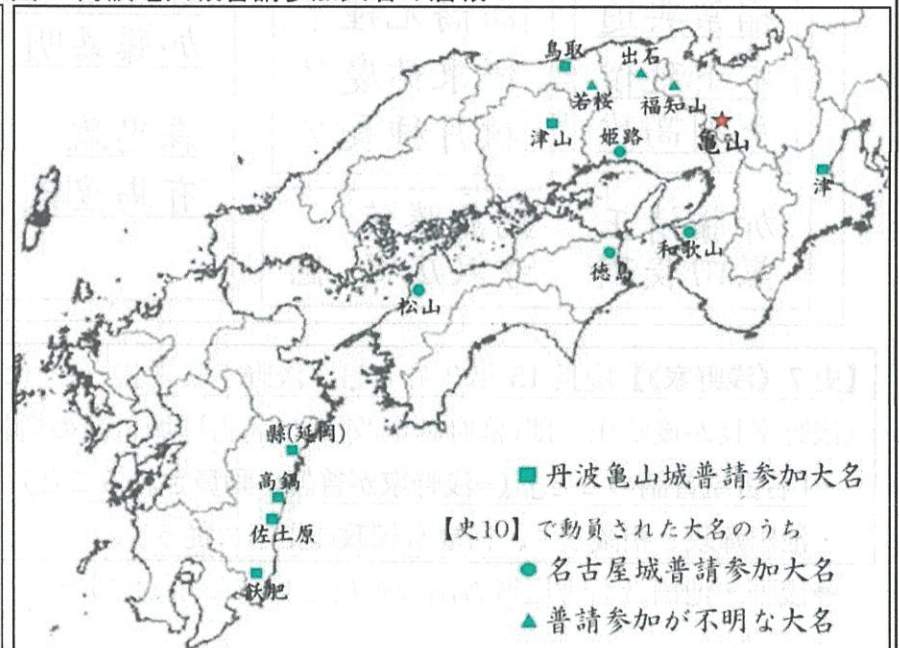
大名	居城	普請変更
藤堂高虎	伊勢・津	
森忠政	美作・津山	あり
池田長吉	因幡・鳥取	あり
高橋元種	日向・縣(延岡)	あり?
伊藤祐慶	日向・飫肥	
秋月種長	日向・高鍋	
島津以久	日向・佐土原	
神保相茂	大和・高市郡	あり

※普請参加が判明している大名のみ

丹波亀山城

- ・名古屋城とほぼ同時期に築城命令
- ・藤堂高虎の縄張によって築城
- ・丹波亀山城普請大名である森忠政・池田長吉は、名古屋城普請に参加していない【史10】
- ・神保相茂は名古屋城普請から丹波亀山城普請に変更されている【史14】
- ・島津家史料で名の出た高橋元種は丹波篠山城普請に参加している【史4】【史31】

図7 丹波亀山城普請参加大名の居城



→当初名古屋普請を命じられた大名の一部が、丹波亀山城普請に変更された可能性がある

【史11《山内家》】慶長15年閏2月6日 山内忠義書状 (三)上

《駿府に向かう途上、近江・草津にいた山内忠義が名古屋城普請の命令を受け取る》

- ・本多正純らの触状(史10)を受け取り、我々にも名古屋普請の命令が出たことを知った
- ・池田輝政からの書状も忠義のもとに届けられた
- ・この書状が到着次第、夜中であろうとも急いで普請衆を名古屋に送ってほしい

【史15《山内家》】慶長15年閏2月15日 山内忠義書状 (三)下

《山内忠義が国許に普請衆を急いで遣わすよう催促している》

- ・諸大名は名古屋に向かっており、池田・浅野・蜂須賀・有馬と露頭で会った
- ・普請衆を「いそぎいそぎ」名古屋に送ってほしい

→急遽動員された山内忠義が急いで国許から普請衆を呼び寄せていることが分かる

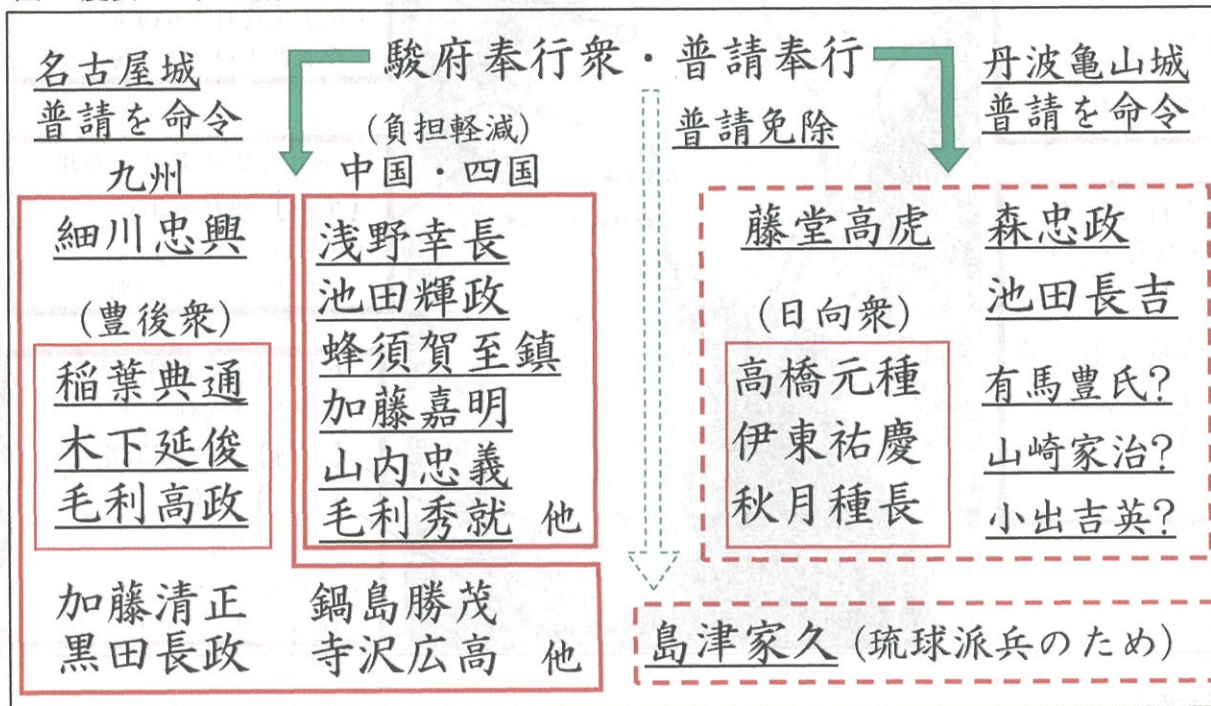
【史 12 《細川家》】慶長 15 年閏 2 月 10 日 細川忠興書状 (三) 上

《普請場である名古屋に向かっていた細川忠興が現地の状況を国許に伝えている》

- ・名古屋には普請奉行が一人も来ていないので、我々は美濃・津屋という石切場にいる
 - ・丹波篠山城普請に参加した大名も残らず名古屋城普請を命じられた
 - ・俄のこと(急遽出された命令)だったので、各々困惑しているが、我々は「くつろいで」いる
- 篠山城普請に参加した大名が急遽動員されたことに焦っている様子が分かる

※【史 16】閏 2 月 18 日 毛利秀就書状には「尾州名護屋之御普請俄仰出」という文言がある

図 8 慶長 15 年 最終的な名古屋城普請命令の概略図



4 石切場と石材調達

①名古屋城普請における石材調達

- ・名古屋城の普請時期、熱田が普請の群衆で混雑していた【史 21】
 - ・名古屋城周辺には石切場が少なく、美濃・三河など遠方から石材を調達した【史 31】
 - ・商人たちが栗石(石垣の裏を固めるための石)を高値で売りに来っていた
- 多くの石材は海路で熱田まで運ばれていたため、普請中は熱田の湊が混雑していた

【史 21 《義演准后日記》】慶長 15 年 3 月 11 日、同 4 月 28 日条 (五) 上

《醍醐寺座主・義演が尾張を訪れた際、熱田が普請衆で混雑していた様子を記している》

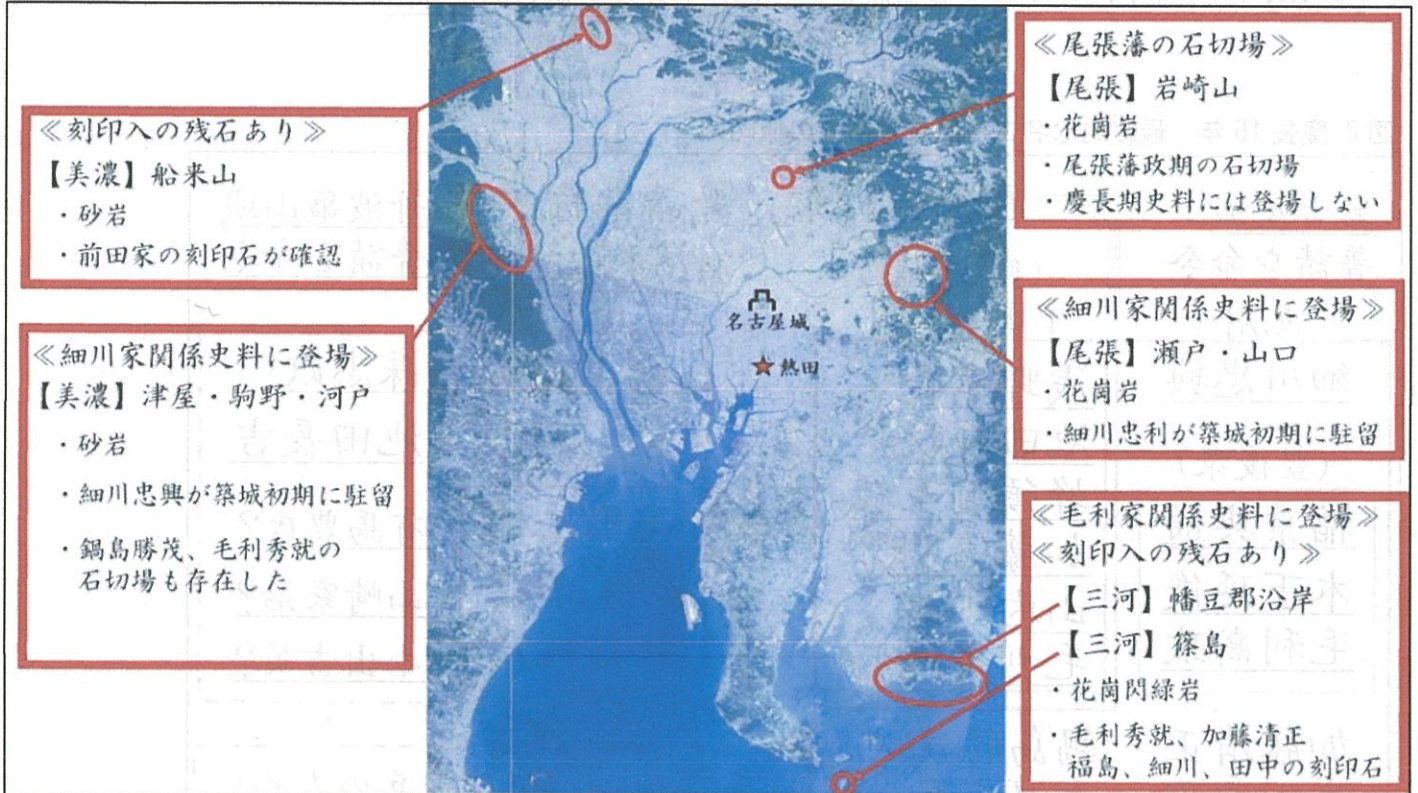
- ・3 月 11 日：桑名から宮(熱田)に渡る際、普請の群衆が多数いて、特に加藤清正が渡海していたため、渡舟が尽きていた
- ・4 月 18 日：岡崎を出発して熱田社(熱田神宮)に立ち寄った際、普請の最中で群衆が多数いたため、性海寺(名古屋の北西 10km にある寺院)まで行くのに時間がかかった

【史 31 《島津家》】慶長 15 年 7 月 20 日 島津家久書状 (七) 下

《琉球王を連れて駿府に向かっていた家久が島津義弘に名古屋・亀山の普請状況を伝えている》

- ・池田輝政・寺沢広高に「美濃・尾張は普請衆で混雑している」と助言を受けた
- ・尾張には石がほとんどなく、三河・遠江境から船で調達するしかない
- ・商人たちが栗石等を持ってきて高値で売っているため、大名たちは相当な出費になっている
- ・福島正則は日本で一二を争う金持ちだが、今回の普請で蔵が空になりそうとのことである

図 9 名古屋周辺地域の石切場



②細川家の石材調達

- ・細川家史料に登場する石切場

美濃：津屋・駒野・河戸(河津) 細川忠興が石材調達を指揮 (2月～3月)

尾張：瀬戸・山口 長岡内膳(有吉興道)が石材調達を指揮、細川忠利も駐留(2月～3月)

→細川家は閏2月の段階で、複数の石切場と名古屋に分散して普請の指揮を執っていた

【史 18 《細川家》】慶長 15 年閏 2 月 19 日 細川忠興書状 (四) 上

《美濃・津屋にいる忠興が尾張・山口にいる長岡内膳に石切の指示を出している》

- ・其方(長岡内膳)はそのまま山口で石材の切り出しをなさい
- ・名古屋の堀普請の人手については、津屋の方から出す
- ・此方(津屋)には良い割石は無いので、其地(山口)で面の良い石を切り出しなさい

【史 19 《細川家》】慶長 15 年閏 2 月 22 日 細川忠興書状 (四) 下

《忠興が瀬戸・山口の石切場にいる嫡子忠利に注意事項を伝えている》

- ・瀬戸・山口の石場は今後「惣様の割」になるので、そうなる前に石を多く確保しなさい

【史 22 《細川家》】慶長 15 年 3 月 22 日 細川忠利書状 (五) 上

《忠利が国許にいる松井康之らに名古屋城普請の状況を伝えている》

(丁場割について)

- ・中国・四国・紀の国衆は丹波篠山城普請に動員されたので負担が軽減される
- ・本丸は九州・北国・美濃衆だけで普請、二之丸は中国・四国・紀の国衆も入れて割り当てる

(必要な石材について)

- ・細川家の割当は約 1000 坪、石数は約 6000 個が必要
- ・4200～4300 個は既に用意できており、残り 1900 個は来月 10 日には半分用意できる
- ・天守の石材は、4 月 10 日までには五郎太(裏込等に使う丸石)も大石も用意できる

③山内家の石材調達

- ・尾張近隣の石切場は史料から確認できないが、土佐から石舟で石材を運んでいた

【史 20 《山内家》】慶長 15 年閏 2 月 29 日 山内忠義書状 (四) 下

《山内忠義が国許から急いで石舟を名古屋に送るよう催促している》

- ・名古屋では大石・栗石を取ることは、舟を用いる以外に方法がないとの話である

【史 25 《山内家》】慶長 15 年 4 月 27 日 山内康豊書状 (六) 上

《山内康豊(忠義の実父)が土佐で石舟を用意して名古屋に送っている》

- ・小間目(古満目、土佐にある湊)で石を積み、積み込みが終わった船から出発させている
- ・先に送った船は 40～50 日以前に土佐を出発したが、未だ着いていないのは心配である

→石舟だけでなく土佐から石材を載せて名古屋に持ち込んでいた

【史料 27 《山内家》】慶長 15 年 5 月 27 日 山内康豊書状 (六) 下

《康豊が石舟を送ることについて忠義に連絡している》

- ・小間目の石舟は上のかや(上ノ加江?)まで到着したが、長雨で動けない状態である
- ・今頃は本丸の根石置きだと思うので、一日も早く石舟を送りたいが、悪天候で心苦しい

図 10 山内家史料に登場する地名と石切場



④毛利家の石材調達

- ・ 閏2月18日：駿府にいた家臣・三浦内左衛門(元澄)らに石切場の手配を命じる【史16・17】
- ・ 4月8日：毛利輝元が「惣なみ」に石材を調達できたことに安堵している【史23】
- ・ 5月15日：毛利輝元が三浦元澄に石材確保の労いを述べ、褒美を与えている【史26】

※三河・幡豆郡の石切場には、毛利家の奉行がいたとみられる(『幡豆町史』本文編2近世)

→毛利家は石切場を尾張の近隣地域に確保していたことが分かる

→後発組である山内・毛利でも石材調達方法に違いがある

5 名古屋城の丁場割と石垣普請

- ・ 3月～4月、幕府普請奉行によって丁場(各大名の担当場所)が決められていった【史22】
- ・ 丹波篠山城普請に参加した中国・四国大名は名古屋城普請の負担が軽減されるよう配慮された

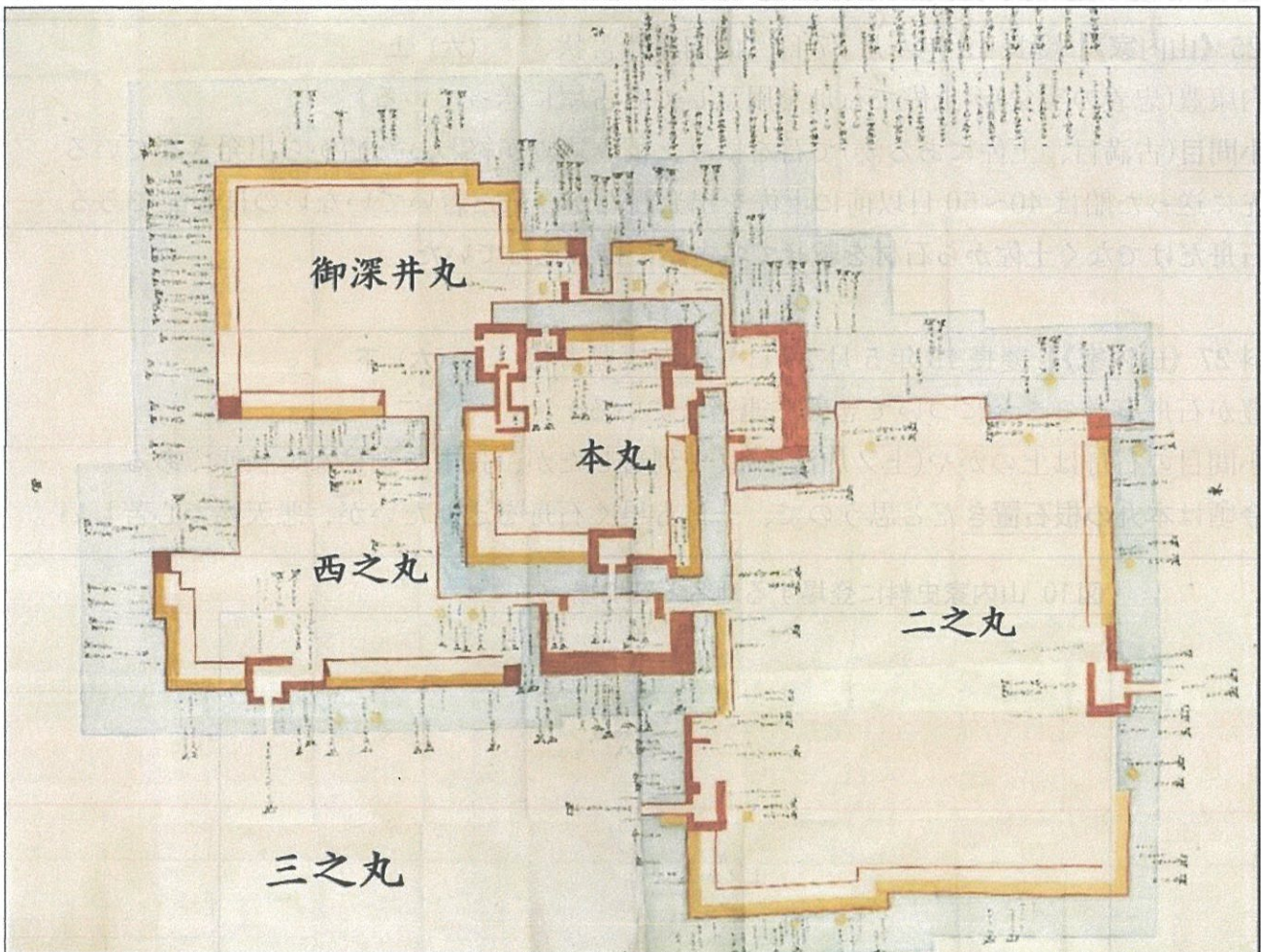
→4月18日時点：本丸は北国・九州、二之丸は北国・九州・中国・四国の大名で担当【史24】

※丁場割図では、担当丁場はすべての大名が城全体に割り振られるよう変更されている

北国・九州の大名は、役高(普請時の負担)が石高の3割増しにされた

→丁場割は6月3日の根石置き直前まで変更されていたと推測される

図11 丁場割図(「名古屋御城町場請取絵図」名古屋城総合事務所蔵)



丁場割図とは…

幕府普請奉行が作成した図面

天守台を単独で築いた加藤清正を除く19家に対し、丁場を「請け取らせる」ため作成された

図 12 丁場割図 (天守台周辺を拡大)

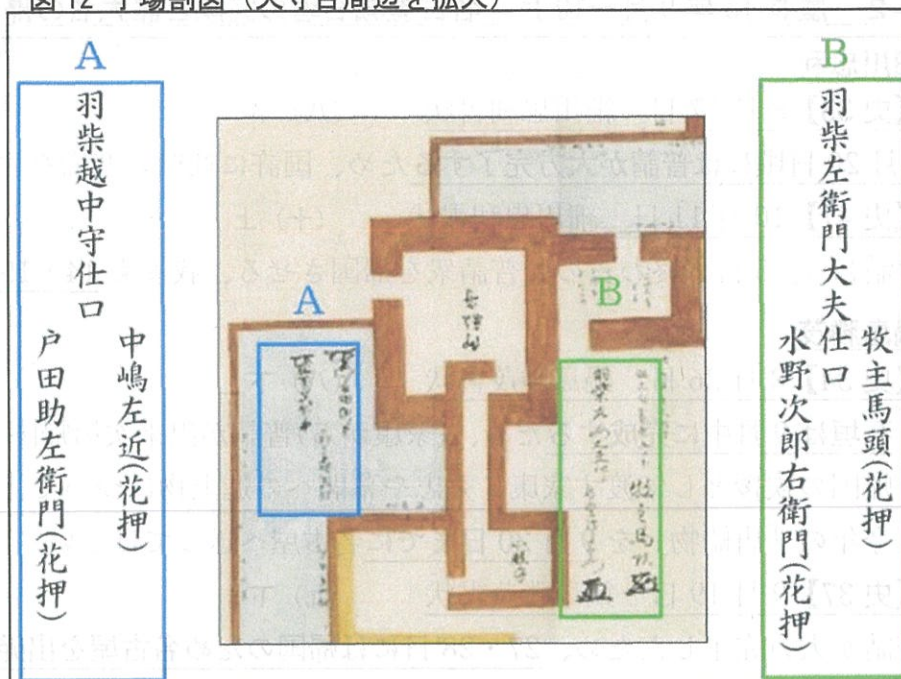
A 細川忠興丁場

- ・中嶋左近
- ・戸田助左衛門
- 細川家の普請奉行

B 福島正則丁場

- ・牧主馬頭
- ・水野次郎右衛門
- 福島家の普請奉行

家臣 1~3 名が花押を据えて自家の担当丁場を確認した



【史 28 《細川家》】 慶長 15 年 6 月 17 日 細川忠利書状 (七) 上

《忠利が国許の松井康之らに名古屋城の本丸普請の様子を伝えている》

- ・大名がそれぞれ積み上げた石垣が天端で 5・6 寸ずれており、積み直しをすることになった
- ・穴太は積み直さなくても問題ないと答えたが、大工は積み直しを主張した
- ・この丁場で積み直したのは福島・蜂須賀・山内・生駒・鍋島・毛利秀就であった
- ・田中・黒田は石垣の積み上げが遅れており、積み直しをせずに済んだ
- ・池田も積み直しをする必要があるが、いまだ作業をしていない
- ・寺沢・浅野は積み直すところがなく、早々に石垣が完成した
- ・どの大名も多かれ少なかれ石垣を積み直す必要があり、細川家も多く直すことになった

【史 29 《細川家》】 慶長 15 年 6 月 17 日 細川忠利書状 (七) 上

《忠利が国許の松井康之らに諸大名との交流について報告している》

- ・池田輝政は細川忠興と仲が良く、忠利のところにも普請の相談のため人を遣わしてくれる
- ・普請奉行の牧助右衛門はもちろん、佐久間河内守も内々に馳走をしてくれた
- ・木下延俊は機会があるたびに我々のところに来ており、毛利高政とも日々話している
- ・金森可重は忠興とそれほど交流がないと思っていたが、こまめに我々のところに来てくれる
- 仲の良い大名と交流しながら、協力して普請を進めていた様子が分かる

6 名古屋城石垣の普請完了

6-1 慶長 15 年 6 月~7 月 本丸石垣の完成

- ・6 月 20 日：家康が本丸普請出来を慰労する黒印状を出している **【史 30】**
- ・6 月 24 日：鍋島家、7 月 7 日：加藤家に幕府普請奉行から「扶持米」が支給されている
- ・7 月 24 日：寺沢広高の書状に「寺沢丁場の過半が完成した」と記されている **【史 32】**
- 6 月下旬~7 月の時点で本丸石垣の普請はほぼ完了していたとみられる

6-2 慶長15年9月~10月 名古屋城石垣の完成と諸大名の帰国

①細川忠利

【史33】8月17日 細川忠利書状 (八) 下

9月20日頃には普請が大方完了するため、国許に迎船の準備をするよう命じている

【史41】10月11日 細川忠利書状 (十) 上

普請は4、5日で終わるので普請衆を帰国させる、我々も 14・15日には帰国のため出発する

②鍋島勝茂

【史34】8月26日 鍋島勝茂書状 (八) 下

・石垣は9月中に完成するため、(家康から)普請が出来次第帰国するよう命令があった

・帰国の挨拶として渡す家康・秀忠や幕閣への進上物について、黒田長政と相談した

・今年の「唐船物」を 9月20日までに名古屋へ送ってほしい

【史37】9月19日 鍋島勝茂書状 (九) 下

普請が大方完了したため、27・28日には帰国のため名古屋を出発する

③毛利秀就

【史35】9月6日 普請奉行連署書状 (九) 上

石垣・堀完成、普請奉行から福原越後(毛利家臣)に掃地人数だけを残して帰国が許可される

【史38】9月25日 普請奉行連署書状 (九) 下

石垣・堀・地形が出来、大石1000個・天守さや石203個・栗石20坪を進上、掃地完了のため、普請衆全員の帰国が許可される

④山内忠義

【史36】9月15日 普請奉行連署書状 (九) 上

山内家担当石垣がすべて出来したので、山内忠義に掃地人数だけを残して帰国が許可される

【史39】9月26日 本多正信書状 (九) 下

本多正信が山内忠義に対して家康のねぎらいの言葉を伝えている

7 まとめ

①名古屋城普請の動員について

・当初は北国・九州の大名のみ動員 → 閏2月に中国・四国の大名を追加動員した

・浅野・池田と山内・毛利で情報収集に差があり、山内は突然の動員に焦っている様子が分かる

②石材調達について

・細川家は閏2月の時点で現地入り、尾張近隣の石切場で石材調達を進めていた

・毛利家は閏2月の命令を受け、在駿府の家臣に命じて急いで石切場を用意するよう手配した

・山内家は土佐から石材を載せた石舟を名古屋に送って石材を確保していた

③丁場割・石垣普請について

・中国・四国の大名は負担が軽減され、北国・九州の大名は石高の3割増で普請役を負った

・丁場割図による普請場所の割当は石垣を積む直前に行われ、丁場割以前に堀普請も行われた

・大名たちは各自で普請や石材調達をしており、家来(普請衆)には他家との交流を制限していたが、一方で仲の良い大名同士では情報交換などをして、協力関係を築いていた